

## 令和5年度 外国語科・外国語活動 授業改善推進プラン

大田区立馬込第三小学校

### 外国語科（高学年）

#### 1 昨年度の授業改善推進プランの検証

##### (1) 成果

- ・既習の語句や表現を用いて、自分のことや身の回りのことを紹介する活動ができた。
- ・簡単な語句や表現を用いて、書く活動を意識して取り入れたことで、短文が書けるようになった。

##### (2) 課題

- ・外国語学習に取り組む意欲や態度に、二極化が見られる。
- ・ジェスチャーや英語を使ってコミュニケーションを図ることに、依然として抵抗感をもっている児童が多い。

#### 2 大田区学習効果測定の結果分析

##### (1) 達成率（経年比較）

	令和5年度結果	令和4年度結果	令和3年度結果
第6学年	達成率は約7割5分である。		

達成率とは、目標値<sup>※1</sup>以上の正答率<sup>※2</sup>だった児童の割合

$\frac{\text{目標値以上の児童数}}{\text{受験者数}} \times 100 (\%)$

例えば、達成率が7割ということは、目標値に達成した児童の割合が7割ということ。全体の児童が100人としたら、目標値に達しているのは70人で残りの30人は、前年度の基礎的な内容の定着に課題があることを示す。

※1 目標値とは、調査において前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される正答率の値

※2 正答率とは、出題数に対する正解した問題数の割合

## (2) 分析 (観点別)

高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"><li>・聞くことは目標値を上回っている。</li><li>・アルファベットを書くことや英語で書かれた語句の意味を理解することは、目標値を大きく上回っている。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・目標値を大きく上回っている。</li><li>・身近で簡単な事柄についての話を聞き概要を捉える問題や、道案内などの日常生活の情報を聞き取る問題の正答率がやや低い。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・目標値を大きく下回る。</li><li>・自分が紹介したい人のできることを表す英文を書くところの正答率が低かった。</li></ul>

## 3 授業改善のポイント (観点別)

高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"><li>・「聞くこと」に関しては、身近で簡単な語や表現を理解できるように、十分に音声を聞かせ定着を図るようにする。</li><li>・アルファベットに関しては、音声に十分親しませ、音声と文字を結び付けられるようにする。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・学習した言葉や表現を十分に理解した上で活用できるように、ALTや友達とやり取りする場面を設定し、表現する力を高められるようにする。</li><li>・基礎知識を会話文ややり取りに活用し、英語を使って書く力を高められるようにする。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・児童が聞いてみたい、行ってみたいと思えるような必然性のある目的、場面を設定する。</li></ul>

## 外国語活動 (中学年)

### 1 昨年度の取り組みにおける成果と課題

#### (1) 成果

- ・担任とALTの二人体制で授業を行っている。ALTと担任とのチーム・ティーチングで授業を行うことで学習活動の幅が広がった。
- ・ゲーム要素を取り入れた活動の中でコミュニケーションを図り、外国語の発音や表現を楽しみながら慣れ親しむことができた。

#### (2) 課題

- ・ゲーム要素を取り入れた活動が中心ではあるが、英語を使った説明では、ゲームのルールが分からず活動に参加することが難しい場面が見られた。よって、ジェスチャーや簡単な英単語を使って、ルールが理解できるように工夫する。
- ・英語を使った活動に意欲的に参加する場面と活動の仕方が分からない場面等、コミュニケーション活動への取り組みに二極化が見られた。そのため、簡単な語句や表現を繰り返し、定着を目指す。

## 2 授業改善のポイント（観点別）

中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"><li>・中学年からリアクションに使う用語を用いたり、ジェスチャーをしたりするなど、全身を使って外国語のリズムや音に慣れ親しむ機会を設ける。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・簡単な語句や表現の練習をした後に、児童がすすんで友達や先生とコミュニケーションを図れるよう、発話の必然性がある場面を設定する。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・ALTの発音やデジタル教材の音源を使用し、日常生活に関する身近な単語を聞き取る活動を多く取り入れる。</li></ul>